

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公開番号】特開 2000-273103 (P2000-273103A)

【公開日】平成 12 年 10 月 3 日 (2000.10.3)

【出願番号】特願 平 11-75564

【国際特許分類】

C 0 8 C 19/28 (2006.01)

C 0 8 F 8/46 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 C 19/28

C 0 8 F 8/46

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 11 月 11 日 (2005.11.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

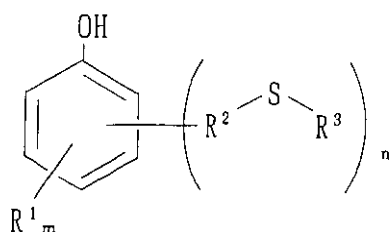
【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

本発明において使用する、分子内にアルキルチオエーテル構造を有しているフェノール系酸化防止剤には、典型的に、以下の式 1 で示される化合物が含まれ、

【化 5】



(式 1)

(式中、 R^1 、 R^2 および R^3 は、それぞれ独立して $C_1 \sim C_{20}$ の炭化水素基であり、 m および n は、それぞれ 1 ~ 4 の整数で、 $m + n \leq 5$ である。)

より好ましくは、分子内に 2 個のスルフィド結合を有する前記フェノール系酸化防止剤が用いられ、更に最も好ましくは、2, 4 - ビス〔(オクチルチオ)メチル〕- O - クレゾールが用いられる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

変性方法

以下の表 1 および 2 に示す各ジエン系ゴムをキシレンに溶解し、無水マレイン酸 (MAH) およびイルガノックス 1520 (IRGANOX 1520) の所定量を加え、140 にて約 20 時間攪拌した。反応溶液をアセトニトリルに沈殿させ、減圧乾燥すること

により無水マレイン酸が導入された各変性ジエン系ゴムを得た。 ^1H -NMRおよびIR分析により、酸無水物構造が導入されていることを確認した。